
十刃小説 ～前編～

ひな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

十刃小説 ～前編～

【コード】

N4658K

【作者名】

ひな

【あらすじ】

・ここは名門虚夜宮学園

もうすぐ始まる文化祭・・・

特別クラスの十刃組では、クラスの出し物として

「白雪姫」をやることになったのだが・・・！！

こ、この配役って・・・！？

十刃現世番 愛と涙の学園ストーリーー始まり始まり

ここは名門虚夜宮学園……。

その中に存在する特別クラス……。

それは……。

「では『十刃組』の諸君……今日のHRでは来月に行われる文化祭について話あってもらおうと思う……。」

藍染先生は十刃組の担任で女子に大人気の、笑顔が似合う中年男性教師。

「まずクラスの出し物について……それを決めた後それぞれの

役割について話あつてもらいたいんだが・・・すまない・・・僕は

ギン先生を探しに行かなくちゃならなくてね・・・。」

ちなみにギン先生は十刃組の副担任で男子に大人気。（次に会つたらぶつ殺したい人No1）

だが現在藍染先生に仕事（面倒ごと）を押しつけて行方不明中・・・（というかサボリ。）

「僕はちよつと抜けるから学級委員を中心に話合いを進めててくれ・・・。」

それじゃあ頼んだよ。」

藍染先生が教室を出て行つたと同時にざわつく教室。

「めんどくせー。」

「・・・だりい。」

「藍染様〜!」

「つーかだれだよ学級委員って・・・。」

ガタツ・・・かつかつ・・・。

学級委員とおもわれるその人物が立ち上がると同時に

ノイトラ君の目の色が変わります。

「……おい待てよネリエル……。なんででめーが前に立つんだよ。」

「なんでって……学級委員だからに決まってるじゃない。」

「はん……。ふざけるなよ。俺はメスがオスの前に立つのはきにくわんねー。」

「……。だったら何？あなたに学級委員の座を譲れとでも？」

悪いけど一度決まったことだし……。それに多数決で決めたときあなたも

手をあげていたじゃない……。」

「なっ……。!?!?」

ノイトラ君の顔が赤くなる……。

「見苦しいぞノイトラ……。君、最近ネリエルさんに相手してもらえないから

わざとつかかかってるんだろっ？それに君……。実はネリエルさんのことす……。。」

「う、うるせーぞエルアポロ！話に割り込んでくるんじゃないねえ！
・・・だいたいお前こそ・・・この前告白して振られたんだろ。」
「なっ！？なぜそれを知ってるんだ・・・！」

いがみあいを始めた2人・・・。

そんな2人の仲裁に入ったのは・・・。

「ええい！やめないか君たち！」
「・・・でヤンス！」

副委員長のペツシエ君とドントチャツカ君です。

「なんだ？やるうつていうのか？」

「……おもしろいね……だいたい僕としては君たちが副委員長
っていうこと

のほづがきにくわないしね……。」

「あ〜も〜！それをいうな！わ、私だって好きで副委員長に

なったわけではないわい！……ただ……こういうのやったら女
子にモテるかな〜？

とおもって……その……。」

横目でちらちらとチルツチ・サンダーウィッチさんを見るペッシェ
君……。

ふと目があう……と同時に……。

「死ね……シロアリ。」

「！」

「どうしたでヤンスかペツシエ！」

「い、今チルツチさんが・・・『ペツシエ君カッコイイ』って・・・」

「は？・・・でヤンス。」

「なっ！なっ！チルツチさんって絶対私のこと好きだよなっ。」

「いや〜やっぱり副委員長効果があったのかな〜。」

「最近よく目があつたよな〜。」

「・・・ペツシエ。今のはおらには『死ね・・・シロアリ』って

聞こえたんでヤンスが・・・。」

「いや〜そんな『好き』だなんて〜。」

「困っちゃうな〜。」

「・・・ペツシエ・・・。病院に行ったほついいでヤンスよ・・・。」

「おいお前ら！・・・詰まんないコントはいい加減に・・・。」

「バン！」

「どつちもいい加減にしないで！今は話あいの時間よ……。」

つまらないことで時間を無駄にしないで！

さっさと席に座りなさい！」

ネリエルさんの声で4人が黙り込む……。

「……ちっ！」

「しかたないね……。」

「す、すみませ〜ん。」

「……でヤンス。」

4人一斉に席に座る……。

「……と、では先ず最初にクラスの出し物について話あいます。

……なにか意見がある人はいますか？」

「「「……」」」

「……ないみたいです。まあこんなこともあるつと藍染先生から

提案書をいただいています。

えつと……『このクラスのこれからのためにも僕は演劇を君たちに提案したい。ちなみに劇の内容は白雪姫だ。……それぞれの個性を生かせ、そしてもつと十刃組の諸君がお互いに中を深めることが出来る

であろうこの劇を僕は君たちに……（長くなるので以下略）』という

ことなのですが、この提案について意見がある人は……」

「はい！賛成です！」

「藍染先生の提案だものもちろん賛成よ！」

勢いよく手をあげたのはロリさんメノリさん……それに続き……

「……賛成だ。」

ウルキオラ君。

「……賛成。」

ハリベルさん。

「めんどくせーから賛成で……。」

スターク君。

「では賛成多数ということで十刃組では『白雪姫』をすることに決まりました。」

次に役割についてですが・・・意見がある人はいますか。」

「はいはい！」

「ペツシエくん。」

「はい！僕は立候補がいいと思います。」

ちなみに僕が王子役でチルツチさんが姫役で。」

「なっ！ふざけないでよ。なんでシロアリが王子役なのよ！」

「えっ？なんでって・・・チルツチさんって僕のことす・・・。」

「くだらない意見は放っておいてほかに意見がある人はいませんか？」

「なっ！？くだらないって言われた・・・！」

「女王役はチルツチさんで七人の小人役はヤミー君、グリムジョー君、

アーロニーロ君、ノイトラ君、ハリベルさん、メノリさん、ロリさん……。

あと悪い魔女役がザエるアポロ君、鏡役がルピ君……。」

ちやくちやくとそれぞれの役割が発表されていく……。

「……ナレーション役は私とペツシェ君とドントチャツカ君……。」

で、残りは姫役と王子役……そして裏方なんだけれど……。」

教室の空気が変わる。

「……ひ、姫役がウルキオラ君、王子役がバワバワ君です……。」

その瞬間それまで無表情だったウルキオラ君の顔色が変わる……。

「それじゃあ明日から練習が始まるのでみなさん頑張りましょう。」

ウルキオラ君はうつすら涙さえ浮かべていた。(実際泣いてないけど)

ぎこちない空気の中・・・波乱の文化祭練習が始まるうとしてい・・・。

一方・・・虚夜宮学園屋上・・・。

「いや～暇やな～。」

「……それなら僕が暇でなくしてあげようかい？」

「ぎくーっ!」

「ギン先生……仕事をさぼってこんなところで何をしてるんだい？」

「いや〜。その〜ちょっと気分転換に外に……。」

「フフフ……そうかい。じゃあたっぷり気分転換したことだし

たっぷり仕事をしてもらうよ……。」

「いや〜その〜ちょっとこれから用事が……。」

「ギン先生、逃げないでくださいよ……今日は徹夜で仕事をして
って

もらうんですからね……。」

藍染先生の目は笑っていない……。

そのまま引きずられて連れて行かれるギン先生……。

そのうつすらあけた目は死んでいた……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4658k/>

十刃小説 ～前編～

2010年10月8日22時10分発行